

あいよく
穢翼のユースティア

*Qui dicitis Passagium, Affertioni omnia Dei, Prox ovis, ignis, caritas, Et spiritus sanctus.
Tu septiformi manare, Dulcis Paterna dextera, Tu rita promissioni Patris,
Seruandis dictans guttura, Accende lumen sensibus, Infunde Animum caritatis,
Infirma nostri corporis Virtute firmavis perpeti.*

オーガストオフィシャルハンドブック
2011年秋号



includes
オーガスト最新作情報

 AUGUST

P R E F A C E — ま え が き

こんにちは、オーガストです。

初めての方、はじめまして。

何度目かの皆様、いつもご愛顧頂きありがとうございます。

2011年7月29日に発売した『FORTUNE ARTERIAL』『夜明け前より瑠璃色な』のWindows7対応版、『機翼のユースティア』通常版が思いの外ご好評を頂いており、増産も行っております。お買い上げ頂いた皆様、ありがとうございました。

そちらのアンケート葉書も届き始めております。アンケート葉書はスタッフが一通一通拝見しておりますので、もしまだお手元をお持ちの方がいらっしゃいましたら、お送り頂きますようお願い申し上げます。(Web上での登録受付も試験的に開始致しました)

FA等のソフトにつきましては、それまでの通常版でもほとんどの方のWindows7では問題なく稼働していたのですが、一部のユーザー様にはどうしても不具合が発生してしまう状況が続いておりました。

ソフトの内容自体が変わったわけではありませんので、以前の版をお持ちで、Windows7で問題なくソフトをプレイできる方は特に買い換え頂く必要はありませんのでご注意ください。

また逆に、「OSはWindows7だが、過去作は対応OSに入っていないから買うのが心配」という方がいらっしゃいましたら、Windows7対応版をよろしくお願い致します。

それでは、多少のお時間を拝借致しますが、オフィシャルハンドブックをお楽しみ下さい。

2011年秋 オーガスト/ARIA 拝

CONTENTS

3 …… 『機翼のユースティア』Short Story
二人と三人の夢

8 …… オーガスト最新作『大図書館の羊飼』情報

10 …… スタッフ対談

11 …… あとがき



二人と三人の夢

榊原 拓

コレットと恋人になってしばらく経った。俺は相変わらず、若手改革派貴族のルキウスの下で下層や牢獄の情報収集を担当している。ルキウス卿は徐々に貴族の中で頭角を現し、改革派の味方も増えているようだ。

牢獄や下層で民衆の支持が伸びていることも参与しているらしい。

俺の活動もその一助となっている。

一方コレットは果物屋の売り子、ラヴィは酒場の給仕とそれぞれ職を見つけていた。

どちらとも上層暮らしが長かったことから、最初は慣れずに失態を演じることもあったようだ。

だが、最近はそのような失敗談も聞かなくなっている。

コレットはその天衣無縫な接客で果物を売りさばき、ラヴィは細かい気遣いでの給仕が好評なようだった。

安定した生活。
ただ……こんなことを言っては贅沢なのかも

しれないが、俺とコレットは晴れて恋人同士となったにも関わらず、二人きりになれることはほとんどなかった。

その日、コレットはいつもより幾分早く帰ってきた。

「ただいま戻りました」

「ん、おかえり」

「今日は新鮮な林檎をたくさん仕入れたのですが、私の口上で全部売り切って来ました」

「それで早かったのか」

「ええ。ほかの果物も一緒に組み合わせ売ったので、今日の売り上げはすごかったですよ」

「ほう」

「夕方には、お店の果物がほとんど無くなっ
てしまいました」

得意げに軽く胸をそらすコレット。

もともと、聖女として大勢の人の前で話すことには慣れている。

全く新しい暮らしの中で、一から生まれ変わったように生活の術を吸収しているという
ものもあるだろう。

もしかしたらコレットには客扱いの適性があつたのかもしれない。

一度、販売光景を見たことがあるが、そのうち下層の市場で名物になってもおかしくないほどの名口上だった。



「そうか。頑張ったな」

ととと、と寄ってくるコレット。

俺にすっと身をもたせかける。

「ええ、頑張りました。ほめて下さい」

ゆっくり目を閉じた。

「やっと私も一人前の仕事をして、自らの足で立てるようになった気がいたします」

「ああ、そうだな」

「これもカイクムさんのおかげです。感謝してもし切れません……」

顔を閉じたまま、軽く顔を上に向ける。

その顎に手を添え、俺も首を傾けて……

「ただいま戻りましたー」

扉を開けて帰ってきたのはラヴィ。

「お、おかえりなさい、ラヴィ」

「お疲れ」

慌てて離れて立つ俺とコレット。

ラヴィは気づかない様子で手に提げたバスケットをテーブルに置いた。

「二人とも見て下さい、酒場から少し余った鶏肉を分けていただいたんです」

「いい色だ」

「おいしそうですね」

「でしょう？ 早速晩ご飯の準備を始めますね」

上機嫌だ。

「わ、私も手伝います」

「じゃあこちらの野菜をお願いします」

並んで料理をする二人。

その姿はまるで姉妹のようだった。

食事を終えて夜。

以前の俺はこれくらいの時間から仕事を始めたものだったが、今はコレットやラヴィに合わせて健康的な生活を送っている。

「ではカイクムさん、明かりを消しますよ」

「ああ」

ラヴィが蝋燭の火をふっと吹き消す。

部屋の中が闇で充ちる。

……決して広いとは言えない部屋。

ベッドを並べて眠るのはコレットとラヴィ。

女性陣と衝立を隔てて俺は寝椅子で横になる。

何かおかしい。

俺とコレットは恋人同士のはずだ。

正式に祝言を挙げたりしたわけではないが、

床を共にするのに何はばかることは無いはずだ。

過去に一度、この話題をコレットに振ってみたことがある。

言葉を選んで、慎重に話を切り出したつもりだった。

だが……

だが……

「ラヴィを追い出そうというのですか！？ そんなことは絶対にいやです！」



とげんもほろろ。

無論、ラヴィの存在が邪魔だなどと考えては
いないし、追い出そうとも思っていない。
とはいえ、多少もどかしい思いがあることも
事実だった。

☆

翌日の夕食時。
俺は将来の夢についての話をしてみることに
した。

もしかしたら、ラヴィに独立する計画がある
かもしれない。

「二人は、何か将来の夢とか、やってみたい
ことはあるのか？」

「うぐ、ええと……ラヴィからどうぞ」

「ええっ、カ、カイクさんからお願いします」

「……しようがないな」

俺はまず、今やっている仕事の概要を話した。

貴族の中でのルキウスの立場から、今現在進
めている調査まで。

「その調査が実を結んで、都市の実態が分か
るのが……まあ現実的な目標だが、夢と言え
ば夢だ」

「すばらしいです」

「意義のあるお仕事をされているんですね」

「成果が出れば、の話だけだな」

最終的な理想は、十数年前の大崩落の原因も

分かることだ。

「それより、お前らの夢はどうなんだ」

「私は……とりあえずカイクさんにチェスで
勝つことでしょうか」

「ずいぶん身近な夢だな」

コレットは少し頬をふくらませた。

「いいんです。全てはそこから始まるような
気がしているのですから」

「そうなのか」

「頑張つて、コレット」

お茶を濁されたような気もするが、まあいい
だろう。

「ラヴィは？」

「わ、私は……」

自ら作ったスプーンをスプーンでかき混ぜる。

「今、働かせてもらっている酒場のお仕事が
楽しいので、もっと頑張りたいです」

「酒場のどんな仕事楽しい？」

「そうですね……」

仕事の一つ一つを思い出すように、ゆっくり
とラヴィが話をはじめた。

「お料理のお手伝いをするのも、お料理をお
客様のところへ運ぶのも、注文を頂くのも、
全部楽しいです」

「なぜですか？」

「聖域にいた頃と違って……自分が誰かの役
に立っているということが、実感できるから
でしょうか」

「……」

コレットも黙って耳を傾ける。

聖女としてのコレット、そのお付きだったラ
ヴィ。

二人が『聖女』という仕組みられた機構の中で、
ノーヴァス・アイテル住民の心を支えてきた
ことは事実だ。

そして、処刑されることによってその鬱憤を
晴らすことまでやってのけた。

しかし、虚構であるとわかっていながらその
役を続けてきたコレットと板挟みになってき
たラヴィには、俺なんかには分からない虚無
感があったのかもしれない。

ラヴィは、一言一言噛み締めるように言葉を選
んで続けた。

「働いて、目の前のお客様に喜んで頂いて、
そして俸給を頂く……自らの手でお金を頂け
るだけの仕事をした実感があることが、喜び
です」

「なるほどな」

「……私も、その喜びは日々感じています」

コレットも同調する。

「辛いことや失敗することもあります、聖
域にいた間は忘れてしまっていた喜びでし
た」

「そうね、コレット」

二人は、頷き合う。

「最近、店主の方が仕入れに行ってらっしゃる間、私が酒場を任されることもあるんです」
「認められてるんだな」

「任せて頂けるというのは、何というか……少し、誇らしいものですね」
そう言ってラヴィは頬を赤らめた。

ふむ。

ラヴィは随分今の仕事を気に入っているように見える。

しかも、店主にも気に入られているようだ。

「自分で店を持つことは考えていないのか？」

「いつ、いえっ、そんな……」

目を白黒させる。

「どうやら、本当に考えたことも無かったようだ。」

「あら、いい考えだと思いますよ、ラヴィ。」

やはり目標をしっかりと持たねば」

「そうだな。いつか自分の店を持つという気概があった方が、普段の仕事でも学ぶことは多いだろう」

「でも、そんなお金もありませんし、お料理の腕もまだまだ未熟ですし」

「謙遜することはありません。貴女の作る料理の美味しさは、私が保証します」

「あの酒場の主人、結構いい年だったよな。しかも息子さんは確かどこかの貴族のお抱え

料理人になっていたはずだ」

「ええ、確かそうだったと聞いています」

「主人が隠居でもしたら、店を継がせてくれる可能性もあるんじゃないか」

「ええっ!？」

「もしそうなら、お店の内装やメニューも少しずつラヴィの好みにできるかもしれない」

「わ、私の好みに……」

中空を見つめ、夢見がちな瞳になるラヴィ。

「ラヴィは、聖域にいた頃から薬草や豆挽き粉を使った料理が得意でしたね」

「ええ」

「ああ、あの味が薄かったやつか」

「あ、あれは潔斎食だったので仕方なかったんです!」

「ラヴィの料理、今は普通の味付けですよカ イムさん」

今日のスープをすくって口に運ぶ。

確かに、あの頃と比べて随分普通になっていった。

「うん。これならもう少し修行すれば独立できるかもな」

「そ、そんな」

「体に良い料理を作らせたら、コレットは今でもなかなかのものです」

「じゃあ健康になれる料理、つてのを売りにしてもいいかもな。珍しいし」



「そんなお店が作れたら素敵ですね……」

「ハーブティーも出せるんじゃないか」

「ええ、そうですね……いろいろと夢がふくらみます……」

あの料理はもったいなくて、お酒はもったいなくて、量で美味しいものを、綺麗な絵入りのお皿を使って――

ラヴィの想像はどんどん盛り上がっていった。普段は表に出してこなかった様々な思いが、こころや口に出すことで、溢れる泉のように湧き出ていた。

ラヴィが本気で独立を考える流れになったら……

う。

俺がラヴィの将来への妄想をかき立てて、ラヴィを追い出そうとしようようにコレットに見えてはいないだろうか。

そんな気配を察したら、コレットはきつとまた激怒するだろう。

コレットの様子を、そっと窺う。

がたん！

コレットが勢いよく立ち上がる。

「そんな楽しそうなお店を、ラヴィにだけ任せてはけません！」

「コレット……」

「ラヴィが料理を作るといふなら、私はそのお店で給仕をします！」

「へ？」

「これでも果物屋の売り子として、客あしらは褒められているのです」

「私が料理を作って、コレットが給仕……」

ラヴィの妄想は加速しているようだ。

「それに、ラヴィ一人では酔った客に絡まれたりするのも不安です！」

「はいはい、そんな時は俺の出番だな」

――どうやら俺の心配は杞憂だったようだ。ほっと胸をなで下ろす。

だが……

ラヴィがもし店を持つことになったとしても、またそこで三人で暮らすことになりそうだ。

生死も苦楽も共にしてきた二人の絆は、本当の姉妹より深いかも知れない。

ま、仲のいいことは何よりだ。

二人が繰り広げる、いつ終わるとも知れない夢の店の話を聞きながら、俺はそんなことを考えていた。

END



オーガスト最新作

大図書館の羊飼

a good librarian like a good shepherd

「汐美学園をもっともっと楽しくしませんか？」

何か悪いものでも食べたのか、彼女——白崎つくみは言った。

前振りがあったわけでもない。それ以前に、彼女と知り合いだったわけでもない。

唐突に、白崎は言ったのだ。

「そういう話なら、生徒会に掛け合った方がいいと思うけど」

と、喉まで出かかった言葉を腹の底まで押し戻したのは、俺——笈京太郎の悪癖だった。

情に棹させば流される、とは有名な小説の一節だが、しばらく後の俺の心境はまさにそれだ。

川の果てまで流れ流され、河口付近を漂っていた俺の周囲には、同じように流された奴らが集っていた。

最高の読書空間だった部室は、もはや昼休みの教室と変わらない有様だ。

「ええと、今日の活動ですが、カフェテリアの……」

聞き慣れた台詞を、白崎つくみが口にする。

今日もまた、寄り道だらけの活動が始まる——

『大図書館の羊飼』

対応機種：WindowsXP/Vista/7(32/64bit)

シナリオ：榊原拓・内田ヒロユキ・安西秀明 ほか

原画：べっかんこう

購入制限：18歳未満の方はご購入できません

発売時期：未定



from STAFF

こんにちは、オーガストです。前回のオフィシャル小冊子にて告知させて頂いた「穢翼のユースティア」に続く完全新作は、「大図書館の羊飼い」というタイトルに決定しました。近日発売の専門誌にてさらに詳しい情報をお届け致しますので、是非そちらもご覧下さいませ。

オーガスト制作スタッフにとっても久しぶり(?)の学園物ということで、新鮮な気持ちで開発に取り組んでおります。オーガストならではの学園造形と設定、そして魅力的なキャラクターたちを生み出せるよう鋭意制作を進めておりますので、ご期待頂ければ幸いです。

べっかんこう (以下べ) :では今回も対談を始めましょう。何の話を楽しみましょうか

榊原拓 (以下榊) :『穢翼のユースティア』の開発秘話とか。

べ:シナリオ関係ではなにかありますか?

榊:昔の資料を漁ってみよう……文化や技術レベルについての資料が出てきました。穢翼では、資料の探しやすさもあって、日本の江戸時代を参考にしていました。

べ:中世ヨーロッパとかじゃないんですね。

榊:そういう部分もあるんですが、結構向こうは不潔で……。

べ:みたいです。お風呂に入らないとかトイレはその辺で済ますとか。それで香水が発達したとか。

榊:ベルサイユ宮殿にはトイレが無かったなんて話もありますが、ギルバルトやリシアがその辺で済ませてたらいやですよええ。

べ:ですね(笑) 実はどこかにトイレがあったりするんですよね。

榊:江戸では、尿尿を江戸周辺の畑に運搬して、発酵させた上で肥料として使うシステムが確立されてたという説もあります。実際にノーヴァス・アイテルでそう使っているかは別にして、とりあえずトイレはある想定でした。

べ:なるほど。でも食べ物も流石に西洋風な感じでしたね。

榊:その辺はやっぱり世界観ってことで。ヴィノレタでカイクが蕎麦すずったり、メルトが寿司にぎってたりしたら、いろいろぶち壊してしょう(笑)

べ:肉とか食べてましたけど、あの世界だと魚はいない感じなんでしたっけ。

榊:魚はまったくいないわけじゃないんですが、極めてレアです。川魚っぽいのが少しだけいる想定でした。

べ:海はないもんなあ。

榊:通貨についての資料も出てきました。聖鑄金貨:100,000円、金貨:30,000円、銀貨:1,000円、銅貨:100円とか。

べ:それより細かいのはないの?

榊:結局登場はしませんでした。豆粒銅貨みたいなものがあるのかも。

べ:今調べたら一両でほしい16万円だそうですよ。

榊:でもその一両ってのも、物価が変わってるからよく分からないんですよ。米基準換算と、長屋の家賃換算と、役人の給料換算で全然違ってきます。……絵の方で制作秘話みたいなのはありませんか?

べ:文化レベルの話がでたので少し関連した話をすると、牢獄の人たちってみんな良い服着すぎなんですよー。特にティアとか。

榊:リアルにするとビジュアルが地味になりすぎるっていう。

べ:一応ある程度牢獄に合うようなデザインも検討したんですが、さすがに地味すぎて使えませんでした。でもリアルにやると実際登場時に着たボロに毛が生えた程度ですよ。

榊:リアルばかりが正解じゃないってことで。さて新作はキャラ名が決まってタイトルが決まって話の大筋もできてきました。

べ:こっちもキャラデザが固まって立ち絵とか描いてますよ。ピンナップもすでに何枚か書いているので雑誌もみて下さいね!

スナップ対談
第30回 べっかんこう & 榊原拓



2011.9.20 21:00 社内にて

POSTSCRIPT - あとがき

オフィシャルハンドブックをお読み頂き、ありがとうございました。
お楽しみ頂けましたでしょうか。

前回の小冊子で第0報として発表した新作『大図書館の羊飼い』ですが、現在順調に制作が進んでいます。
近日中には誌面にて詳細もお知らせできると思いますので、ご期待頂ければ幸いです。(大阪ドリパでは発表済みかも知れません)

さて、今年の10月1日でオーガストのオフィシャルサイトが開設10年を迎えました。また来年の2月には、オーガスト第一作の『パイナ
リィ・ポット』発売からも10年となります。

特に"10年記念企画"といったものは考えていなかったのですが、ご期待の声を多く頂いたことから、ささやかながら今年の冬あたりに何か作ろうと考えています。新作の制作を優先しているので、本当にささやかなものになるかと思いますが、オフィシャルサイトにて追って詳細を掲載致しますのでチェックして頂ければ幸いです。

それでは、今回はこの辺で。
今後ともオーガスト/ARIAをよろしくお願い致します。

2011年秋 オーガスト/ARIAスタッフ一同

オーガストオフィシャルハンドブック 2011年秋号

※禁無断転載・無断複製

最新情報満載!
オフィシャルホームページにぜひお越し下さい!

<http://august-soft.com/>
<http://aria-soft.com/>





オーガストオフィシャルハンドブック
2011年秋号

